



東京多摩プロバスニュース

第 97 号



■事務局: 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 1-53-28 鈴木泰弘方 ■電話: 090-4846-7183

■URL: <http://www.tokyo-tama-probusclub.com> ■編集・発行: 広報委員会 2021. 11. 10.

共に学びながら、高齢化社会に貢献しよう

第 207 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 9 月 1 日(水)予定するも中止

第 208 回 定例会

日 時 : 令和 3 年 10 月 6 日(水)13:30~15:00

場 所 : 関戸公民館 第 3 学習室

出席者 : 14 名 (会員数 : 26 名)

理 念

1. 豊かな人生経験を生かし地域社会に奉仕する
2. 活力ある高齢社会を創造する
3. 会員同士の交流と意欲の向上をはかる
4. 非政治的、非宗教的、非営利的であることとする



ごあいさつ



人生 100 年時代に挑戦

新型コロナウイルス拡大ニュースが大きく報道され世界中を恐怖に陥れ震撼させて早くも 2 年近くになる、令和 3 年 10 月 1 日は緊急事態宣言、蔓延防止条例等解除され、其々の自治体による規制は残るものの、久し振りに安堵した日であり普通の生活に戻れる希望と光も見えてきたが予断は許されない。一層のコロナ感染防止対策励行の継続が必要と思われる

さて、私の山梨故郷自慢の一つに「健康長寿県山梨」があります。数年前に男女共に全国 1 位にランクされた事もありました。近年も常に上位に掲げられています誰もが願う「健康で長生き」地域性、慣習制等要因其々考えられますが、昔から甲州人の健康長寿を継続したいと、願う要因と考えられる「無尽講」と言われるコミュニティ文化が今も根強く残されています。貧しい寒村で粗食と厳しい農作業に耐えて暮らす人々の生活の知恵と娯楽の中に生まれた交流会である。

諸々のサークル、ご近所、同級生、職場の仲間等多岐に亘るグループが、定期的に会して食べて飲んで歌って喋ってその上で、昔は生活に困窮した仲間を支援にする互助会的に毎回決めた金額を積み立てて融通し合い、余

小林 務幹事



白山橋;多摩中央公園通りをまたぐ橋で、すぐ近くには「ハローキティ」でデザインしたマンホール蓋があります。

った分は旅行や観劇に出掛ける際の補助にする。情報交換の場所の一つとしても、健康長寿にも有効と考えられます。この無尽講文化維持継続もコロナ禍により現状は中断されていると聞かされています。1 日も早くコロナ収束を願い、無尽講再開を期待して高齢者の元気な暮らしが 1 日も早く普通の生活に戻れる事を祈ります。「元気で長生きピンピンころり」は、高齢者医療費削減にも繋がりますプロバスクラブ理念の高齢社会貢献になると信じて、元気で暮らす人生 100 年時代に挑戦しましょう。

1. 幹事報告

小林務幹事

コロナ禍に昨年度 17 期は例会も開催出来ず理事会の開催に留まりましたが、皆様の尽力によりオンライン講演会が開催出来た事は多摩市民の皆様にも東京多摩プロバスクラブの存在感のアップールになったと確信しています。

今期 18 期に於ける活動目標はコロナ感染状況も考慮しながら各委員会の計画された活動内容に基づき実施に向けての具体策の検討をする。その他。

- 1) 東京多摩プロバスクラブ創立 20 周年記念に向けての協議検討を進める。
- 2) 八王子プロバスクラブ主催の全国大会に向けてホストクラブ役について連絡会議を持って支援策の検討をする。

2. 委員会報告

2.1. 総務委員会

藤崎喬子委員長

待望の定例会 (18 期第 1 回) が 10 月から始まりました。小林幹事司会により、出席者全員の声が聴けた穏やかなひとときでした。委員長としては五里霧中ではありますが先輩諸氏に教わりながら、また、他の委員会と連携し合いながら、心地の良いプロバスを目指して参る所存です。

2.2. 研修・親睦委員会

片倉満委員長

10 月 6 日 (水) 午前 11 時から関戸公民館ミーティングルームにて委員 4 名の参加にて行なった。

主題は、12 月 1 日定例会終了後の忘年会、または懇親会を行う件を話し合った。



協議の結果、コロナ感染予防対策を徹底したうえであれば開催可能が見込める環境と判断し、京王クラブに

て開催に向け準備することとなった。なお、参加者は部内のみとする。

2.3. 地域奉仕委員会

澤雄二委員長

コロナ禍を避けて委員会活動はできていません。緊急事態宣言が解除され、感染者数も現在の数を維持していれば、12 月の定例会前に初めての委員会をつむぎ館で開きたいと考えています。懸案のマイマイズ視察を検討したいと思っています。

2.4. 広報委員会

登坂征一郎委員長

- 1) プロバスニュース第 97 号を 11 月 10 日 (水) 発行・配布。
本ニュースは紙上編集会議にて作成しました。寄稿された各位に御礼申し上げます。

- 2) 会員各位からの寄稿は随時募集しています。
(私と多摩・我が故郷・私の趣味・私の一品・対外活動等々テーマは自由です)

- 3) ホームページの更新は、上記ニュース発行後に致します。
感想など頂ければ幸甚です。

2.5. 会員委員会

小林務委員長

今期より 2 名の新入会員 (小林伴子様、渡辺ますみ様) が入会されました。新規入会者の募集も難しい状況ですが、其々が自身の友人知人等の勧誘情報も得ながら積極的に募



集活動を進める事をお願いします。

第 18 期 多摩プロバスクラブの役員

◆◆◆ 休会会員から ◆◆◆

鈴木達夫会員

リウマチの悪化の治療に専念すべく、多摩プロバスクラブを休会していますが、現況を報告します。

高齢化社会を迎えている多摩市は、誰もが健康で幸を実感できるまち(健康都市)を目指しています。そこで、私も家の中でじっとしていないで少しでも体を動かし、人とも接することを心掛けています。

まずは毎日、聖蹟記念館広場でラジオ体操をし、その後数人が大谷戸公園に集まってストレッチ体操を行うところから一日が始まります。

日曜日には朝 8 時、走友会の会員と南諏訪公園でストレッチ体操をしてから各自ランニングやウォーキングを楽しみます。

月曜日は、稲城の天然温泉「季乃彩」に行き、入浴後近くの稲城図書館で読書など。

火曜日は、木の実公園集会所で木の実サロン、続いてひじり館でカラオケ。

水曜日は、連光寺本村集会所で元気アップ体操です。

木曜日は、聖蹟記念館の林間コースでターゲットゴルフ。

第二木曜日は、常盤会(老人会)で食事会です。

金曜日は、武道館で太極拳。

土曜日は休養日です。

紅葉の季節になりました。

私も再来年は米寿を迎えます。

会員の皆様のご活躍はニュースで拝見しています。お元気でお過ごしください。

1. 童話づくりに挑戦中

上田清会員



昨年からはじめたコロナウイルスの感染拡大は、日本のみならず世界を席卷し、第1波から5波へ、さらに第6波へと、その再来が危惧されています。というのも、今なお国によっては感染力の強いデルタ株等の拡大が続いていること、コロナ対策よりも経済対策を優先した人流増加が見られることなどが第6波を心配する大きな要因になっているようです。

こうした状況の中で、この2年間に何度も実施された緊急事態宣言によって公私にわたる諸活動の自粛が求められ、小生もご多分に漏れず旅行や飲食、地域活動等の制約を余儀なくされてきたところです。

しかし、自粛によって生じた空白の時間をプラス思考で有効活用したいとの思いから、5年ほど前に参加した「童話講習会」での初心をもって一念発起し、童話づくりに再挑戦することとした次第です。またコロナで巣ごもりをしている孫たちを元気づけたい、自分が生きた証に陶芸作品と共に何らかの心情的な作品を残したいという動機もあって童話づくりを始めることにしたものです。

これからの手習いでは遅すぎるとは心配する



御仁もおられましたが、始めてみると心身の若がりには最適で、今では子供目線で構想を練ったり、あれこれと言葉遊びをしながら楽しい日々を過ごしているところです。

また、「たかが童話と思うなかれ」との心構えでサンデー毎日の特権を活用した書店巡りをしながら、大きく言えば花鳥風月や四季折々の中でメルヘンの世界を創造するのも、童話づくりの楽しさ、醍醐味ではないかと自負しております。

そして現在、未完の状態となっている童話らしきものを完成させて、多少なりとも地域社会に恩返しができるよう孤軍奮闘しているところです。

2. オリンピック・パラリンピックのボランティアを終えて

渡辺ますみ会員



猛暑の中でのオリンピック・パラリンピック(オリ・パラ)が無事終わりました。このオリ・パラのボランティアにシティキャストとして参加する機会に恵まれました。

3年前から都内にて、3度の研修を受け、これからグループ別で、現場での研修が始まろうとする中、コロナ禍でかなわずメールにての研修となりました。しかしながら、研修の中身は大変充実しており、オリ・パラの歴史、大会ビジョンである多様性と調和の意味、パラリンピックでのサポートの基本、救急時の介護方法、東京の観光ガイドの知識に至るまで、その資料も学習内容も緻密で、とてもレベルの高いものでした。

私の場合は、5年前からボランティアをする決意のもと、英会話、手話の修得の準備に勤しみました。でも、コロナ禍での開催となり当初の予定していた活動と異なり、都庁での活動のみとなりました。オリンピックに関する展示場の案内や来場者への声掛けが主な活動内容でした。パラリンピックでは、国立競技場へ向かう学童の見守りが主な活動となりました。

都庁では、ワクチンの接種会場となっていたこともあり時々見学の方はいらしたものの、密にならない少ない来場

者でした。でも、つくづく感じたのはこのオリンピック・パラリンピックは日本開催だったから実現したということです。徹底した感染対策と、細部に渡る暑さ対策、ボランティアへの充実した教育、スタッフの細やかな気配りと多大な努力がなされたからである。

そして無料で持ち帰れる記念グッズ。例えば市松模様の折り紙やマスコットキャラの紙製の組み立て式になったサンバイザー、オリンピックの記念バッジ、都内の観光名所の詳しい多言語付きの地図等々。それは日本ならではの「おもてなしの心」に基づいたものでした。もし海外からのお客様が来日していたならきっと称賛を浴びていただろうに残念でなりません。少し残念な、しかしながら得難い体験をした暑い夏が終わりました。



オリンピックマスコットのミライトワ・パラリンピックのマスコットのソメイティ (小学生の投票によって生まれた)

3. 私の趣味

数年前なら、この自粛期間は嬉々として大好きな額造りに没頭していたことだろう。しかし、さすがの段ボールフェチも Cutter する力の衰えには逆らえず、泣く泣く魅力的な段ボールを処分した次第である。自ら描いていたころは、専ら木炭とパステル。その絵の大きさに合わせて額を造りニスを塗って仕上げた。

藤寄喬子会員



(右が私の作品)



絵画鑑賞については、年齢に伴い、レンブラントやベラスケスから「印象派」「バルビゾン派」へと変化している。光の質感、空気感、補色を混ぜた暗い色造りが好きなのかもしれない。

ドラマ性を感じる作品に、クロード・モネ (1840～1926) 「散歩 日傘をさす女性」がある。セ

ーヌ川の土手の上、振り向きざまの表情は風に消され、モデルよりも、それを包む光により強い関心が注がれている。日傘は光を分け、白いドレスには青い空や多彩な色彩を帯びた野の草の輝きが反映されている。子供と一緒にモデルは、若くして亡くなったモネの妻カミーユである。

八王子の富士美術館でベルト・モリゾ (1841～1895) の作品「桜(さくらんぼ)の木」を鑑賞して以来彼女のファンになった。マネのモデルとしても知られている。モリゾの作品には風景画よりも家族や知人との日常画が多く「庭のウジューヌ・マネと娘」は別荘に滞在中のひとこまを描いたものである。強烈な 陽光と、それによる輝く反射効果の描写は、よく観ると大雑把な筆遣いなのに三人の穏やかな幸福感までもが伝わってくるような気がする。夫の



かしわ葉あじさい

(175×67 cm)

ウジューヌはマネの弟である。コロナ終息後、富士美術館へ行くのが楽しみな今日この頃である。



4. 私の囲碁遍歴・上達への道程その一齣

堀内陽二会員

京都での同志社大学学生時代(昭和 26～30 年)の四年間学内に部活として囲碁研究会なるものがあると知り、以前から囲碁には興味を抱いていたので早速入会したことでした。その研究会場として使わせて頂いていたのが日本棋院京都本部(藤田塾とも言われ藤田五郎先生ご夫妻のお住まいでもあった)で、囲碁勉強研究の場として私達学生にとって環境・雰囲気共にこれ以上望めない稽古場でした。

藤田先生は学生囲碁の生みの親育ての親としても著名な先生でした。先生の門下生等プロ棋士の出入りが多く、親しく接し時には教わる機会も多くあり腕を磨くのに大いに役立った。大学卒業の時先生から日本棋院の三段の免状頂きました。当時(昭和 30 年頃)の三段はかなり自慢出来る代物でした。自慢ついでに...その後徐々に腕を上げ、今は七段の免除を持っています。

彼の有名な今は亡き呉清源師(碁の神様と言われ)と藤田先生とはたいそう御懇意でありましたが、その呉先生が当時 11 歳であった坊主頭の林海峯少年を中国から連れてこられ、藤田先生ご夫妻のもと親がわりにと預けられたものこの頃でした(昭和 27 年)。

藤田先生が我々に、林さんと打ってやって下さいと言われ、林少年(林チャン)に白をもって打ったのは後にも先にもこの時だけでした。

趣味の話は往々にして自慢話になりがちですが、或る時呉清源師とは京都のホテルでの催事で多くのプロ棋士に指導碁を打っていただく記念大会があった時、昔の囲碁仲間の推挙があつて、こともあろうに呉清源師に三子で打って頂くチャンスを頂きました。この時は何と!!勝たせて頂いたのでした。後々このこと呉清源師に三子で勝った人と吹聴されからかわれ、でも素直に嬉しかった思い出があります。

話変わって今から 25 年程前「囲碁」という名の専門月刊雑誌でのシリーズものの企画がありましたが、題してトッププロに“三子で勝てればアマー流”と言う企画に I 氏というアマ強豪の推薦の結果、トッププロのお一人で今は亡き加藤正夫九段との対局(指導碁)が市ヶ谷の日本棋院の和室の対局室でセットされたことでした。この時は妻と次男が側で見学付きでさすがにカチカチになって、まず碁を打ってしまったことでした。10 頁以上の棋譜は破れたりとは言え、今でもその雑誌は大事に手放せません。そのほか書き出したらキリがありませんが、プロ棋士に指導碁を頂いた数多くの思い出は尽きません。



左手前が筆者、対局者は加藤正夫九段、奥は奥様と次男さん

神谷真一さんは、当クラブ発足以来総務、地域奉仕・広報と幅広く活躍され、第12期会長の折、プロバスフェアを開催、一般市民への紹介に務められました。サイクリング・釣り等積極的に主導・参加され、また、ダンス、ちぎり絵・写真・俳句など多趣味の方でした。多摩市の釣り連盟の会長や関戸公民館と茶道連盟共催の男性茶道教室を立上げ、その後男性茶会「侘助」を主導、人望厚く皆さんから親しまれました。令和3年6月4日ご家族に見守られ逝去されました。享年八十三歳。特に親交のありました会員に弔意を綴って頂きました。合掌。文責：登坂征一郎会員

上田清会員；神谷さんとはプロバスクラブに入会した当時から総務委員会等でご指導を賜り、閉会時の飲み会でも楽しい時間を過ごさせていただきました。また、海釣りやウナギ取り、サイクリング、茶道教室などでも一緒にさせて頂いて思い出は尽きません。



木更津沖への釣り船にて、左最前列が神谷さん

生前は体調を少し悪くされて充分なお話もできず残念に思っております。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

北村克彦会員；多趣味をお持ちだった神谷さんとは、飲み会は勿論ですが、俳句サークルでも一緒にさせていただきました。その中の俳句から神谷さんのお人柄を偲ばせていただきます。プロ野球阪神タイガースファンの神谷さん、俳号は虎子でした「初夢の歓声の中虎走る」、釣り人でもあった神谷さん「竿の先波間の音と秋の風」、ちぎり絵の趣味では「ちぎり絵は根気と材料秋の夜」、奥様との日常の中で「みかん剥く妻の小指の白さかな」など。神谷さんのお心が偲ばれます。

ご冥福をお祈り致します。

増山敏夫会員；虎キチの神谷さん俳号は猛虎、毎年期待を裏切られてか晩年は虎子と改号。大の釣りキチで釣りの句が多かった。この句も自画像のようで故人が偲ばれる。

赤蜻蛉浮子に留まりて空当たり

虎子

堀内陽二会員；神谷さんご夫妻とはそれぞれ別々にお付き合いがありました。真一さんとはプロバスで、一方奥様の央子様とは関戸・一ノ宮コミセンの運営協議会仲間として。神谷さんと小生は澤雄二会員が代表の2020TAMA 協議会にお誘い頂き、出席の都度二人は聖蹟桜ヶ丘駅前で待合わせ澤会員の運転の車に乗せて頂き、ご

一緒にした思い出があります。悠々たる神谷さんのお人柄を改めて忍び、今はご冥福を心よりお祈りする次第です。

大澤亘会友；神谷さんの思い出といえば何と言っても当クラブや会員の方々の在籍中の数々の活動を写真として残してくれた事です。その都度労を厭わず会員一人一人に区分けして配ってくださった几帳面さと親切心が忘れられません。また、男性茶道教室「侘助」の発起人として私にも声をかけて頂き、それまで考えたことも無かった茶道の勉強の機会を作って下さった事も神谷さんのお陰でした。

阪東照子会員；アラこんな所でと、京王デパートで何度もお会いしましたね。タンゴダンスがご趣味でいらしたとか拝見できず残念。私は戦後後楽町にあったアニーパイルによく行き踊り疲れて「壁の花」の時もありましたよ。所で夢中になられた手漉き和紙のちぎり絵は、重ねる色使いの深みやアングルが上手で個展を開ける程沢山作られました。以前頂いたはがきの絵は、紅葉美しい林の小道に黒い人影がリーベと気づかせるのは、片方の女子の曲げた足の角度だけ、情念の発露に感動し大切にしています。

私の寝間から輝く月がみえます。「のさんになられた神谷さん、今日タイガースが勝ちましたヨ」もう少しおしゃべりしようご座いました。



鶴牧西公園での「侘助」の野点の時の神谷さんと阪東会員

小池博会友；男子茶道の会に誘われて「侘助」に入る事になりました。学生時代茶道研究会に入っていたため、何とかなるだろうと思ったのが大間違いで袱紗捌きも忘却の彼方にありました。

恐る恐る部室に入ったところ真新しい袱紗をさっと渡して下さったのが神谷さんでした。その後プロバスクラブに入会以後も新人の私を丁寧に指導して下さり、楽しいプロバスライフを楽しむことが出来ました。神谷さん有難うございました。

◇◇◇神谷さんを偲んで(つづき)◇◇◇

山田正司会員；当クラブ発足時からの会員で、クラブを最も愛し、そして楽しんだ方だと思われま。いつも前向きの行動派で、頼まれたら断れない敬愛すべき人でした。桜が丘の街に詳しく、定例会後のお楽しみ会には皆が等しくお世話になりました。誠に寂しいかぎりです。

鈴木泰弘会員；初めて神谷真一さんとは13年前の秋、関戸公民館と茶道連盟の共催による市民講座「男性茶道教室」が企画され参加した時でした。神谷さんの風貌は仙人然として話すほどに親しみを覚える好々爺と感じました。

1年半で「男性茶道教室」は終了し、その参加者の熱意と希望により、2010年、神谷さんが幹事役で同好会「佗助」を結成し月1回のお稽古も朝の準備から片付けまで和気藹々と楽しいものでした。時には鶴牧西公園の民家での野点、府中郷土の森公園での茶会等も催されました。2018年12月で「佗助」は解散し、9年間の楽しい活動でした。

そんな中2012年神谷さんの勧めによりプロバスクラブへ入会、2015年神谷さんが会長になられる時に総務を依頼され、何の躊躇もなくこの方となら・・・と「やらまいか精神」で引き受けたくらいでした。決して無理強いをしない、それでいて人を引き付ける魅力・・・大人(たいじん)の風格がある方でした。合掌。

藤崎喬子会員；神谷さんのタンゴはアルゼンチンでしたかしら。私はコンチネンタルですが、もう少し早く出会えていたら教えて頂いて一緒にできたかもしれないですね。ダンス、カメラ、俳句、ちぎり絵と多彩な才能に驚きます。デリケートな優しさを思い出します。私がそちらに行ったら、私の大好きなルンバを、そしてタンゴをリードして頂けますか。Shall We Dance ?

澤雄二会員；平成27年のお花見は粋な企画で、隅田川の屋形船でのお花見、頬を撫でる風も心地よく、酒も回り始めた頃、すーっと寄ってきた人が神谷さんでした。優しい笑顔で「澤さんちよつといい。実は私次期会長を仰せつかったの。それでプロバスフェアをやりたいので澤くん頼むね」と……。翌年の6月にプロバスフェアを展示会とイベントの2本立てで開催し、市民との交流になりました。以来、神谷さんとのお付き合いが深くなりました。

「2020TAMA協議会」への入会も神谷さんの勧めです。一昨年、アフリカの外交団とのサッカー大会の折、傘寿の神谷さんが記録の撮影でサッカー場を走り回っておられた姿は目に焼き付いています。

心からご冥福をお祈りいたします。

◇◇◇ ハッピーバースディ ◇◇◇

1. 9月誕生日を迎えられました！



左から増山敏夫・秋山正仁・登坂征一郎・廣瀬昌英 各会員

増山さん;患いは人生の同伴者だと思ふ今日この頃です

秋山さん;ワクチンで希望湧き有難う

登坂さん;八十路越えて断捨離と思ふと手が止まり捗らず

2. 10月誕生日を迎えられました！



増山副会長から記念品を受け取る藤崎喬子会員

藤崎さん;子育てと介護の果て、気づけば喜寿となりけり

◇◇◇ 編集後記 ◇◇◇

隔月のプロバスニュース第97号を、今回も無事お届け出来ることに感慨ひとしお。2年近い怒涛のごときコロナ禍の中であって、休みなく充実した内容で発行し続けられたことに、先ずもって中心より感謝する。○小林会員の長寿への挑戦「ごあいさつ」に賛同し、幹事、各委員長の丁寧な活動報告、鈴木休会員からのお元気な近況報告に安堵。そして寄稿をいただいた上田、渡辺、藤崎、堀内各会員の見事なまでの老いて尚の「多様な生き様模様」に深い感銘を覚え、こちらも百倍の勇気を頂く。○「神谷真一さんを偲ぶ」に寄せられた大勢かつ多方面にわたる温かいお言

葉には、故人の崇高なまでの人柄が表現されており、同時に当クラブ会員相互の豊かな交流関係が象徴されていた。○さて当プロバスニュース編集作業は、PCに精通した登坂、永田、北村、伊藤各会員に限定されている。企画から原稿依頼、作業分担、入力、寄稿者承認、校正、印刷・発行に至るまで、コロナ禍中では、全て各自宅での単独作業で、時に深夜に至ること屢々。その専門性と奉仕の精神保持は余人をもって代え難し。広報委員の一人ながら、無力な私から心よりの敬意を表し、以後も東京多摩プロバスクラブ繁栄にエールを贈る。(広報委員 山田正司会員記)